

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 3 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671700270
法人名	医療法人 中西内科クリニック
事業所名	グループホーム 山川
所在地	徳島県吉野川市山川町川東80番地 (電話) 0883-42-7038

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2
訪問調査日	平成 20 年 10 月 1 日

【情報提供票より】(平成 20 年 9 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 15 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
	利用定員数計 9 人
	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	その他実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	- 円	昼食 - 円
	夕食	- 円	おやつ - 円
	または1日当たり		833 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 9 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.2 歳	最低 65 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中西内科クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は国道から少し路地に入った、川田川に沿った自然豊かな場所に立地している。隣接する母体法人の医療機関と24時間の協力体制による利用者一人ひとりの健康管理が行われ、本人や家族が安心して過ごせるよう支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題は全て改善されている。運営推進会議は奇数月に開催されている。市町村へは月末に訪問して事業状況の報告や「便り」の作成時に必要な意見をもらうなど連携を図っている。金銭管理出納帳へは来訪時に家族の確認サインをもらっている。日中は鍵をかけない支援に取り組んでいる。地域との付き合いも積極的に行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者や管理者、職員は全員で話し合い自己評価に取り組んでいる。課題については「改善チェックシート」を作成して計画的に改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し入居者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、理事、職員が参加している。会議内容は行事や防災対策、日常生活について討議されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置したり、家族の来訪時に意見を聞いたりして意向の把握に努めている。要望等は運営者や管理者、職員間で話し合い運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事や祭り、運動会に積極的に参加して地域の人々との交流に努めている。また町内の清掃時にはボランティアとして参加し、地域の一員としての連携に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「みんなでいっしょに支えあう」を運営理念としている。理念は玄関やホール、スタッフ室に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は常に理念について話し合い、共有し、日々の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や祭り、運動会に積極的に参加して地域の人々との交流に努めている。また町内の清掃活動(ゴミ・缶拾い等)にはボランティアとして参加し、地域の一員としての交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は評価の意義を理解して全員で検討している。課題については「改善チェックシート」を作成して計画的に改善し、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し入居者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、理事、職員が参加している。会議内容は行事や防災対策、日常生活について討議されている。また参加者からの質問や意見、要望を受け止めて双方向的な会議となり、サービスの向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へは月末に訪問し、入退居状況の報告や「便り」の作成に必要な意見をもらっている。運営上の相談に乗ってもらうなどの連携を図り、サービスの改善に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族へ利用者の写真を添付した日常記録を送付し、健康状態などについて報告している。また家族の来訪時にはその都度報告している。金銭管理についても出納簿への記載と家族の確認印がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族の来訪時に意見を聞いたりして意向の把握に努めている。面会が少ない家族には電話で伺っている。要望等は運営者や管理者、職員間で話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動の際には1か月程の引き継ぎ期間を設けている。その間は職員を重複して配置し、利用者との馴染みの関係が築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、月1回テーマを決めて学んでいる。事業所内研修では受講職員による伝達講習や資料の配布が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。研修会への参加の機会を利用するなどして交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず見学を勧めている。利用時にはこれまでに使っていた家具などをできるだけ持参してもらえよう説明し、自宅で過ごしていた環境に近づけるよう心がけ、安心して生活できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「みんなでいっしょに支えあう」理念のもと利用者と職員が共に学び、共感し、寄り添いながら支えあう関係が築かれている。ウクレレの演奏が得意な利用者を中心となって音楽会を開いたり、料理の味付けを利用者にしてもらうなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの聞き取りや利用者との日々の関わりの中での会話から思いや不安、喜びなどを把握し利用者の意向を詳しく知ること努めている。意向の把握が困難な方には表情や行動の中から思いを推察し確認しながら一人ひとりにあった暮らし方の支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のモニタリングでケアを評価し、本人や家族に意向・希望を聞き、サービス担当者会議を経て介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調の悪化時やモニタリングで把握した状態変化時には介護計画の見直しがされている。定期的に見直しをし、必要に応じて家族への要望、意向を確認し作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に応じて通院時の送迎や買物などの支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じてかかりつけ医での診察が受けられるよう支援している。また母体法人の医療機関による24時間の協力体制も整えられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応指針を定め、事業所が対応し得るケアについて説明し、同意を得て全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事介助の場面で食べこぼしをさりげなく取り除いたり、分かりやすい言葉遣いで会話をするなど、利用者の尊厳を大切にされた言葉かけやプライドを傷つけないような支援が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事や外出への参加などは利用者の希望を聞き、一人ひとりの持っているペースに合わせた過ごし方を支援している。またリビングや事業所前のベンチなど、その人の居場所づくりを行い思い思いに過ごせるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理、後片付け等は一人ひとりの好みや力量を活かしながら職員とともに楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能な体制が整っている。希望者が重なったときは職員が立ち会いのもとで時間の調整を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や洗濯物干し、ウクレレ弾きなど生活歴を活かした役割、楽しみごとを支援している。昼食後にはウクレレの音色がして音楽会のようなものである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や季節、体調、希望を考慮しながら散歩や食品・日用品の買い物に出かけている。歩行困難な利用者も車や車いすで積極的に外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全に配慮しながら鍵をかけないケアに取り組んでおり、日中はどこも施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火、避難訓練などを実施し、防火設備の点検やマニュアルの整備を行っている。また消防署や駐在所との連携を図り、協力体制が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた栄養バランスや水分量を把握し、同一法人の管理栄養士に助言をもらっている。摂取量などは全て記録し、体調や運動量に考慮した支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールでは食器を洗う音が聞こえたり、調理する風景が見えるようにするなど五感に働きかける工夫を行っている。また不快な音や光がないよう工夫し、安心した暮らしができるよう気配りしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビやぬいぐるみ、置物、家族の集合写真など自宅で使っていたものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		